

UTokyo COMPASSと GX推進に向けた取り組み



生物材料科学専攻 高分子材料科学研究室
藤井ビジョン検討タスクフォースメンバー
岩田 忠久教授



東京大学は、昨年10月1日に、藤井輝夫総長の任期中における基本方針となる「UTokyo COMPASS 多様性の海へ：対話が想像する未来(Into a Sea of Diversity: Creating the Future through Dialogue)」を公表しました。これは、東京大学が自律的かつ公共的存在として社会そして世界の中で担うべき使命と、その研究・教育の営みがもたらす効果と影響とを深く自覚し、多様性に関わった対話をこれまで以上に重視し、あるべき未来像を社会と共に作り上げていくことに貢献するための理念と方向性に関する基本方針です。

東京大学は、このUTokyo COMPASSの基本理念を通じて、「世界の誰もが来なくなる大学」を目指しています。ここでは、UTokyo COMPASSの概要を農学部・大学院農学生命科学研究科の教職員、さらには学生諸氏にも知っていただくとともに、今回のテーマであるグリーントランスフォーメーション(GX)の推進に向けた全学の取り組みについて紹介します。

GXとは、人類の共有財産である地球環境をよりよく管理し、環境に配慮した先端技術を用いて、脱炭素(温室効果ガス排出量実質ゼロ)や次世代再生可能エネルギーの開発などを通じて、将来世代に引き継いでいくための社会変革を意味しています。そのため、人文・社会分野と科学技術分野の両プロフェッショナルが連携することにより新たな学問分野を産む起爆剤としての可能性をGXは秘めています。

UTokyo COMPASSの概要

東京大学は、学知を生みだし、つなぎ、深める拠点として、問いを立てる基礎力をはぐくみ、卓越性と包摂性の実現を目指しています。学術における卓越を実現するには、多種多様な人間が集まって議論し、学び、課題の発見と共有と解決とに取り組むことが不可欠です。真理への探求心と学問の自由と根ざす研究と、地球的な視野と高い倫理と粘り強い実践力をそなえた人間をはぐくむ教育に取り組み、さまざまな学知を結び究める自律的な総合大学の新しいモデルを築くことを目指しています。

今回のUTokyo COMPASSは、3つの視点(Perspective)である「知をきわめる」「人をはぐくむ」「場をつくる」に加え、それらを支えるための「自律的で創造的な大学活動のための経営力の確立」の4つの柱からなっています。さらには、これらを実現するための20の具体的な目標が示されています。

PERSPECTIVE 1「知をきわめる」

「対話」を特に重視しています。新たな学知は、既存の政治・経済の枠組みに収まらないものを含む公共性への奉仕の責務を自覚し、批判や検証に開かれた透明性を確保する「対話」のなかで創造されるものです。東京大学における真理の探究と学知の創出は、学ぼうとする者の好奇心やひらめきを駆動力とし、

公共心の核となる誠実さに支えられて、さまざまな声を受けとめながら進んでゆくものです。そうした対話は、関連する知や関わる人間をつないで、活性化させる力の基礎でもあります。学内・学外、文理の垣根を越えた「対話」を続け、さまざまな知の接続機能をもつ拠点(ハブ)としての大切な役割を果たすことを目指しています。

PERSPECTIVE 2「人をはぐくむ」

対話力に優れ、専門知識と教養を兼ね備えるとともに、聞こえにくい声にも耳を傾けられる次世代のリーダーの育成教育に力を注ぎます。しなやかな対話力をはぐくむために、海外修学の機会の拡大、海外拠点の活用やグローバルな就業体験、ローカルな現場でのさまざまな実体験を得られる枠組みを充実させます。さらに、デジタルトランスフォーメーション(DX)やサイバー空間の可能性を活かし、従来の枠組みを超えて学生との対話・学生の参加を促進する教育に、先駆けて取り組んでいきます。

PERSPECTIVE 3「場をつくる」

社会のさまざまな人々とともに、大学という場を総合的に活用していく工夫を凝らしていきます。そうした対話の重ねあわせによってネットワークを拡張、「世界の誰もが来なくなる大学」となることを目指しています。そのために、教員・職員・学生の多様性を重視し、DXを存分に活かした学び方・働き方の再点検を進め、若手

の雇用の安定や多種多様なキャリアパスの整備、国籍・ジェンダー・障害等のさまざまな困難を抱えた構成員の受容や待遇の向上など、未来につながる魅力ある研究・教育や雇用のシステム整備などに総合的に取り組みます。さまざまな場の創出を通じて、大学の公共的な存在意義や固有の機能に対する信頼と支持・支援の好循環を形成することを目指します。

UTokyo COMPASSには、20の目標に対して具体的な行動計画とモニタリング指標が記されています。例えば、UTokyo COMPASSに記された新しい取り組みの事例としては、財政経営本部の設置、脱炭素プラットフォームの設置、産学連携プラットフォームであるETI-CGC(Energy Transition Initiative - Center for Grobal Commons)の設置、GX本部やDX本部の設置、教育支援ツールであるUTokyo Oneの構築・導入、ダイバーシティ研究・教育推進機構の設置、外国語による授業を行う組織の整備、リカレント教育データベースおよびポータルサイトの構築、ダイバーシティ&インクルージョン宣言の制定、インクルーシブキャンパス推進本部の設置などがあります。

ぜひ一度、下の二次元コードにアクセスして、UTokyo COMPASSの全文を斜め読みでよいので、眺めてみてください。さらに各々の具体的な行動計画に記載されたモニタリング指標の一部が、第4期中期計画・中期目標とも連動しています。



多様性の海へ：対話が想像する未来

3つの視点(Perspective)と20の目標

PERSPECTIVE 3 場をつくる

- 安心して活動でき世界の誰もが来なくなるキャンパス
- 教育研究活動の支援
- サイバー空間に広がるキャンパス
- 社会への場の広がり
- 国際的な場の広がり

PERSPECTIVE 1 知をきわめる

- 地球規模の課題解決への取り組み
- 多様な学術の振興
- 卓越した学知の構築
- 産学協創による価値創造
- 責任ある研究



- 包摂性への感受性と創造的な対話力をはぐくむ教育
- 国際感覚をはぐくむ教育
- 学部教育：専門性に加えて幅広い教養と高い倫理性を有する人材の育成
- 大学院教育：高い専門性と実践力を備え次世代の課題に取り組む人材の育成
- 若手研究者の育成
- 高度な専門性と創造性を有する職員の育成
- 大学と社会をつなぐ双方向リカレント教育の実施

自律的で創造的な大学活動のための 経営力の確立

- 「自律的で創造的な大学モデル」の構築
- 持続可能な組織体としての経営戦略の創出と大学の機能拡張
- 大学が果たす役割についての支持と共感の増進

UTokyo COMPASSにおけるGX

UTokyo COMPASSにおいてグリーン・トランスフォーメーション(GX)は、デジタルトランスフォーメーション(DX)やダイバーシティ&インクルージョンとともに、最も重要な行動計画の一つとして位置づけられています。

東京大学では、人類社会が直面する地球規模の課題(健康、経済格差、ジェンダー平等、紛争や分断、エネルギー、資源循環、気候変動等)に関し、東京大学が有するあらゆる分野の英知を結集してその解決に取り組みます。国際的なGXを先導するとともに、GXを先導する人材の育成およびGXに資する地域・産業との協創を積極的に推進します。

国際的なGXを先導するための取り組み

東京大学の英知を結集した学術的知見に基づき、産業界や自治体などとも連携しつつ、国際的なGXの先導を目指します。具体的には、人類の共有財産としての安定的な地球システム(グローバル・コモンズ)をより良く管理するメカニズムの構築を目的とする国際協働プロジェクト「グローバル・コモンズ・ステュワードシップ・イニシアティブ」を強化し、着実に実行します。また、日本が今世紀半ばまでに脱炭素(温室効果ガス排出量実質ゼロ)を達成するための経路と政策を議論するためのETI-CGCを組織し、日本社会の変革に学術の立場から貢献することを目指しています。

さらに、東京大学の脱炭素キャンパス化を目指し、東京大学の二酸化炭素実質排出量について、2030年度に2006年度比で半減するためのロードマップを策定するとともに、実現に必要な制度・政策手段を明確にします。さらに、2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを達成するための行動を呼びかける国

際キャンペーン「Race to Zero」に東京大学として参加し、国際社会と積極的に協働します。これらの取り組みを全学で着実に進めるために、教職協働組織としてのGX本部を創設する予定です。

GXを先導する人材の育成

GXを先導する人材の育成を目的とし、多様性と包摂性、グローバル・コモンズ、データサイエンスやデジタル活用などを広く学ぶことによって、複雑化する現代社会において重要となる包摂性への感受性や高い対話力と実践力をはぐくむ教育プログラムを学部学生向けに創設するとともに大学院学生向けにも展開を図ります。

優秀な大学院学生に海外、あるいは産業界での活動の機会を準備するとともに、新たに開始した博士課程学生向けのGXを先導する高度人材育成プログラムにより、深い専門性に加えて、分野をまたぐ広い視野を併せ持つ将来の新たな学術・学知の創出を担う人材育成を実現します。

GXに資する地域・産業との協創

GXに資する先端戦略分野(量子、人工知能、脳型コンピュータ、半導体、通信インフラ、金融、数理、都市計画、医療、生命科学、材料等)、さらにこれらの研究領域における文理融合による部局横断的な産学協創を推進します。また、国土の約0.1%を占める東京大学の各キャンパス・施設が立地する自治体や市民、企業など、地域総体と連携してGXに積極的に取り組みます。具体的には、7以上の自治体と、脱炭素の実現に向けた実行計画策定の支援など、GXに向けて協働するとともに、GXに向けた地域連携の在り方について、他大学・他地域が参照可能なモデルとして発信することを目指します。

対話から生まれる「世界の誰もが来なくなる大学」



本研究科に求められること

東京大学が目指す「世界の誰もが来なくなる大学」を実現するためには、大学が培ってきた学問の創造や人材の育成への信頼を通じて、現代の世界が直面している地球規模の複雑な課題への取り組みに際し、GXの3つの行動計画は必要不可欠です。UTokyo COMPASS全体およびGXに関連する全ての行動計画は、本研究科のさまざまな取り組みと密接に関連しています。本

研究科は、多彩な研究領域と多くの附属施設を有しています。また、フィールドワークを通じて国内外に多くの研究・広報拠点も有しています。構成員の皆さんが、それぞれの立場で、それぞれの場所で、対話を重視し、分野を越境する協力・研究を遂行することにより東京大学が目指す「世界の誰もが来なくなる大学」に大きく貢献することが可能となります。GXは本研究科が先導して取り組まねばならない課題であることから、多くの方々の魅力的な提案と多彩な取り組み、さらには強力な推進を期待しています。

UTokyo COMPASS 具体的な行動計画



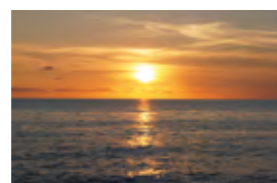
グリーン・トランスフォーメーション

GX: Green Transformation



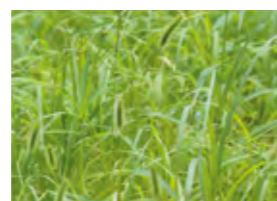
国際的なGXを先導

グローバル・コモンズ・ステュワードシップ指標の作成、産学連携プラットフォームETI-CGCを新たに組織、東京大学のCO₂実質排出量を2030年度に2006年度比で半減、Race to Zeroに参加、GX本部(仮称)の設置



GXを先導する人材の育成

人類の共有財産としての地球システム(グローバル・コモンズ)に関する教育を実施、GXを先導する高度人材育成プログラムの推進



GXに資する地域・産業との協創

脱炭素の実現に向けた実行計画策定の支援、GXに資する先端研究領域における文理融合による産学協創の推進



弥生 74 Spring 2022



東京大学大学院
農学生命科学研究科・農学部
Webサイト
www.a.u-tokyo.ac.jp

編集後記

脱炭素社会を目指して「グリーン・トランスフォーメーション(GX)」を推進する機運が高まっています。本学が定めた基本理念であるUTokyo COMPASSの中でもGXは重要な行動計画の一つとして位置づけられています。そこで今回は「GXする」というタイトルで構成を組みました。「Yayoi Highlight」では蔵治先生に演習林でのGXへの取り組みについてお書きいただきました。「農学最前線」では、鈴木先生にご自分の研究をご紹介いただき、根本先生、霜田先生、青木先生、樋口先生、岩田先生、鴨下先生に座談会形式でGXに対する生産農学の役割などについてお考えをうかがいました。

「ON THE CAMPUS」では、生物材料科学専攻の皆さん、「IN THE SOCIETY」では農林水産省から現在国際連合食糧農業機関(FAO)に出向中の横川さまを紹介させていただきました。「Yayoi Café」では、岩田先生にUTokyo COMPASSの概要とGXへの全学の取り組みについてお書きいただき、「Epiphanies その瞬間」では岡田先生にご登場いただきました。GXと我々との関わりについて、あらためてお考えいただく機会になれば幸いです。

広報室員 濱本昌一郎